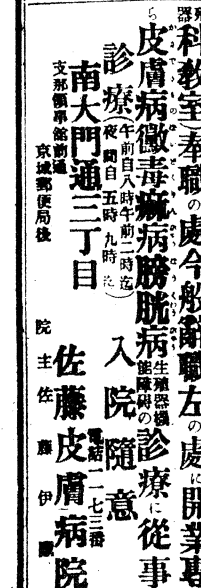


明治四十三年 紀元二千五百七十年
 本紙 一枚金二錢 一ヶ月金卅五
 定價 號三ヶ月金 六ヶ月金
 定價 貳圓 郵稅一ヶ月三錢
 月曜日及大祭日の翌日は休刊(月刊)
 廣告 五號活字十七字一行情一圓
 料金 五十錢 雜報特別廣告五號活
 字十七字一行情一圓
 發行兼諸人 高木久馬 大
 印 京師西藥西小松(電話六六三)
 發行所 京城新報社

▲平南線完成計畫　平南線工事は目下
澗結水期中とて現狀其他差支なきもの
と雖、外の殆ど休工の姿なるが近く
解水するに至れば既に始工せるは固り
過日受負入札に附したる第四工區工事
に着手し、工區一齊に始工する筈にて一

の所無所實なる事に至るべく、
交通機關の完備と共に輸送上の便
を得るに至らば今日に於けるものよ
比較的廉價なる格順炭若くは本溪湖
をも使用し獨り交通上の便利を増す
みならず之が機關と運用する上に
費用を減じ延ては滿韓兩國の近接


れ呉れ、と、言はせも果てや三十九度
の杯サア目出度いと思ふうち、又、祇園
の栞間四五十名、藝者末社がズラリと
列び、甲、小唄、分れた目出度うござい
せん」ワツと云ふ趣き、三味線、
「音聲の糸も床しうして、小唄の耳も雙
た、下げられなかりやア、下げねばで
宜い、俺ア和歌達の待遇に嫌なく
日の馳走、小安、小層な事と言ひやは
な、和歌、京都に來ねば事もあるめ
此方ある是でも都門とも交際して居て



五
り
徳
商
店

牧場

本店 東京市日本橋區兜町
支店及出張所 大坂、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關、新大坂町(東京)、兵庫、伏見、西區(大坂)、釜山

大
自製
和洋酒、糖、酢、穀物、麵類、銘茶、罐詰、乾物、
食物、食料、雜貨、ビール、米、乾、鹽、辛、日本食

辯護士 岡田 榮
(電話三九八番)

立神丸 三月 九日午時申

100